令和元年5月17日
第13回HTLV-1対策推進協議会

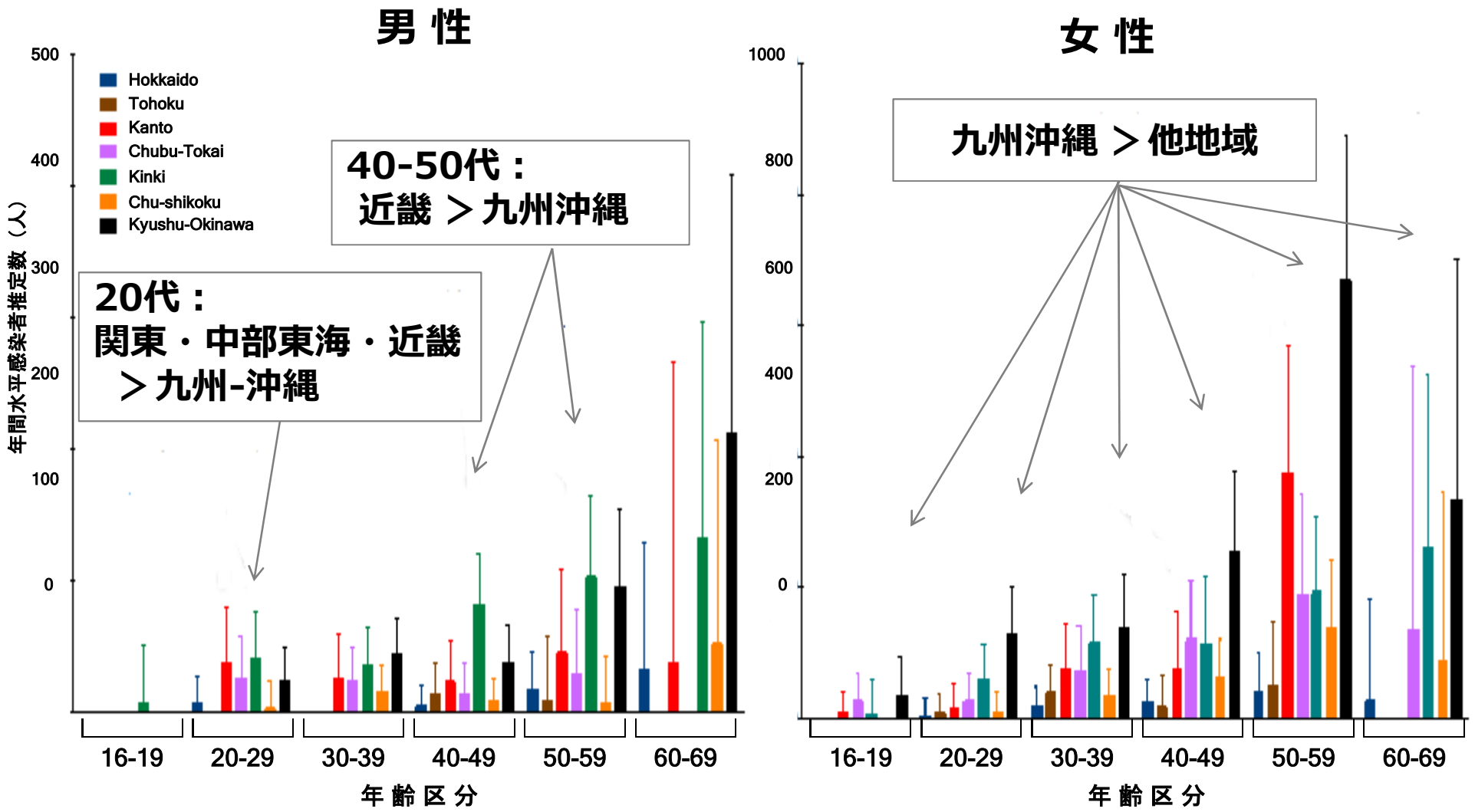
資料1

HTLV-1水平感染キャリアの疫学調査

相良 康子

日本赤十字社 九州ブロック血液センター

HTLV-1水平感染疫学調査（2005-2011）



The Lancet Infectious Diseases 2016;16:1246-54.

第1次HTLV-1水平感染疫学調査（2005-2011）

献血者追跡調査

全国で**年間 4,190名が新規感染** していると推測

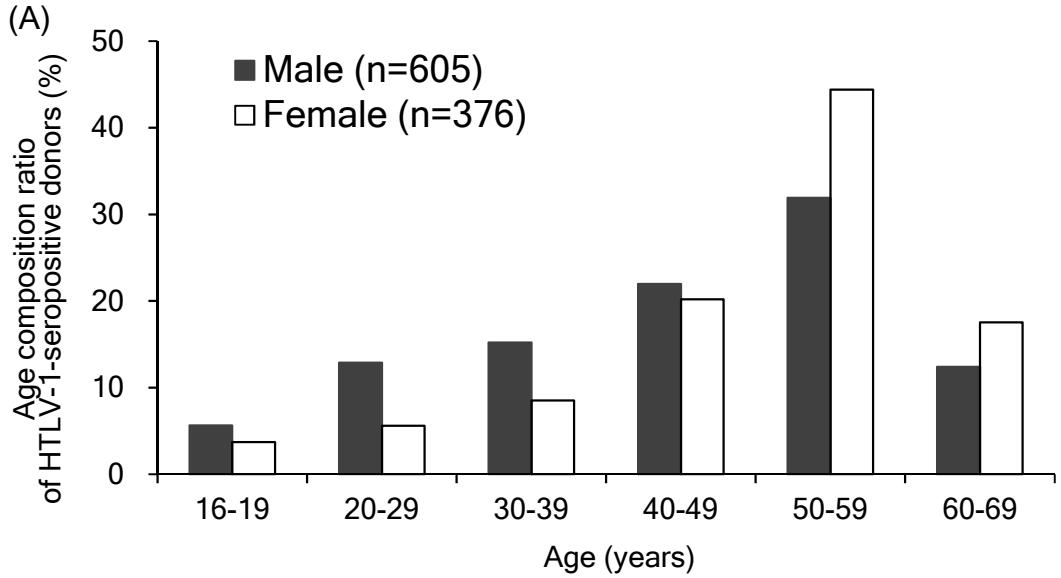
The Lancet Infectious Diseases 2016;16:1246-54.

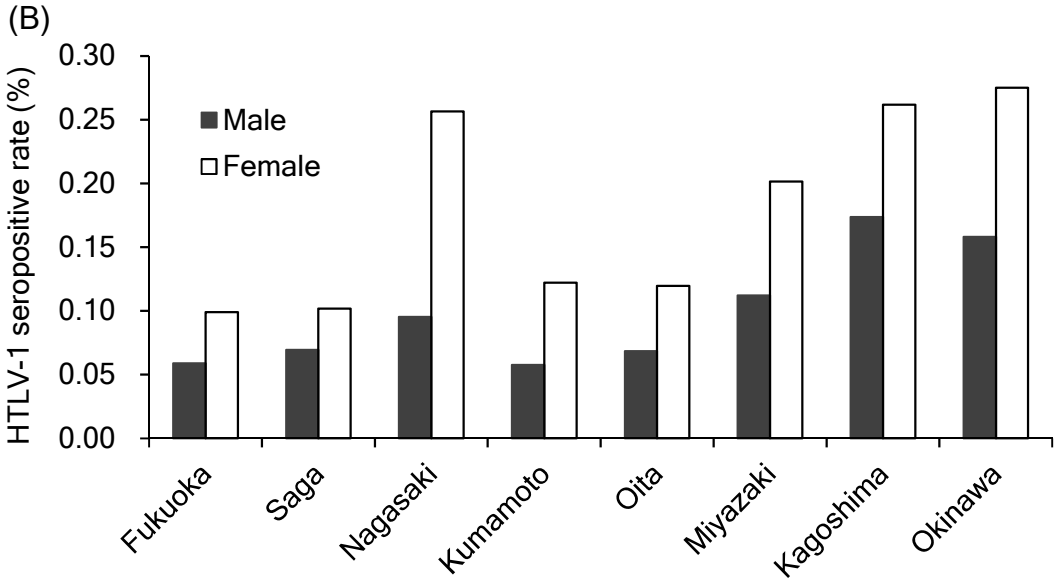
水平感染発生状況の再検証

第2次HTLV-1水平感染疫学調査（2010-2016）

in 九州（世界的高浸淫地域）

九州におけるHTLV-1感染疫学調査





年齢的分布

男女とも年齢階層が上がるにつれて陽性率も増加する

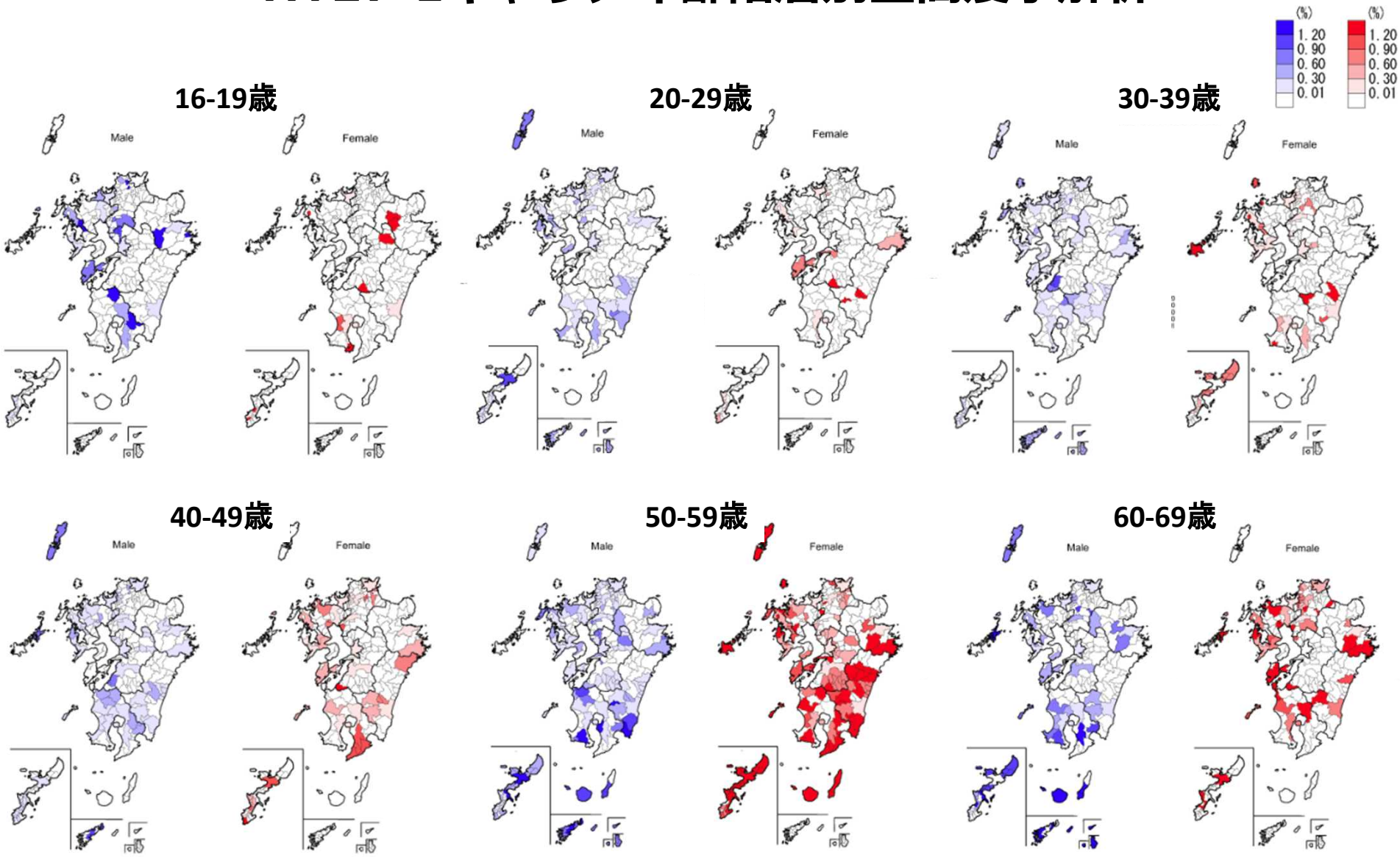
地域的分布

低浸淫地域＝　福岡、佐賀、熊本、大分

高浸淫地域＝　長崎、宮崎、鹿児島、沖縄

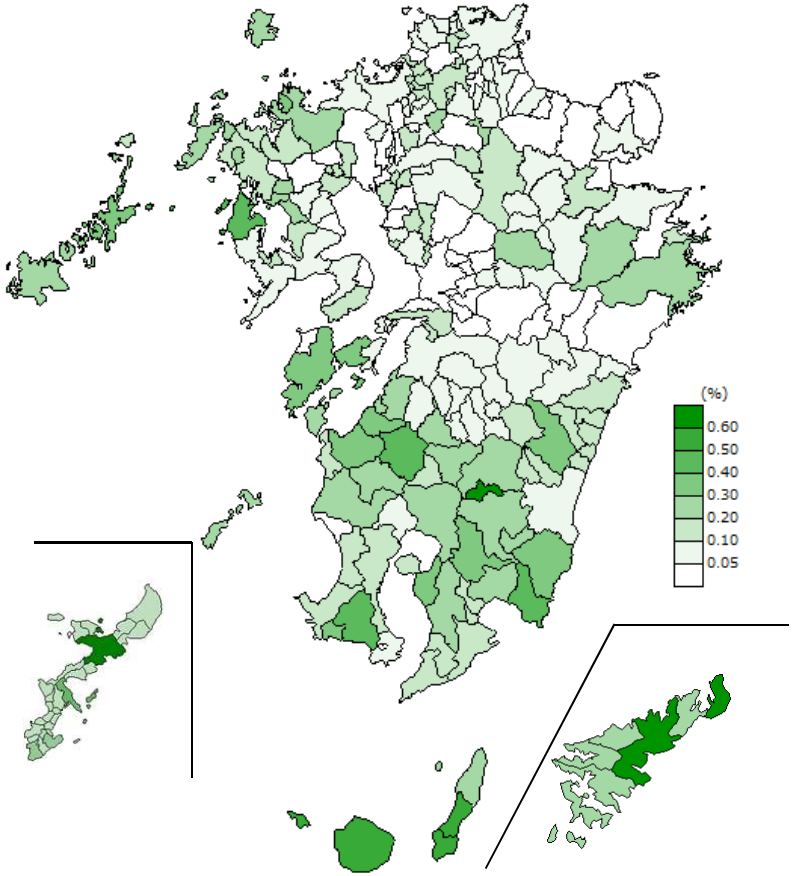
J Med Virol. 2018 Oct;90(10):1658-1665. doi: 10.1002/jmv.25239.

九州における
HTLV-1キャリア年齢階層別空間疫学解析

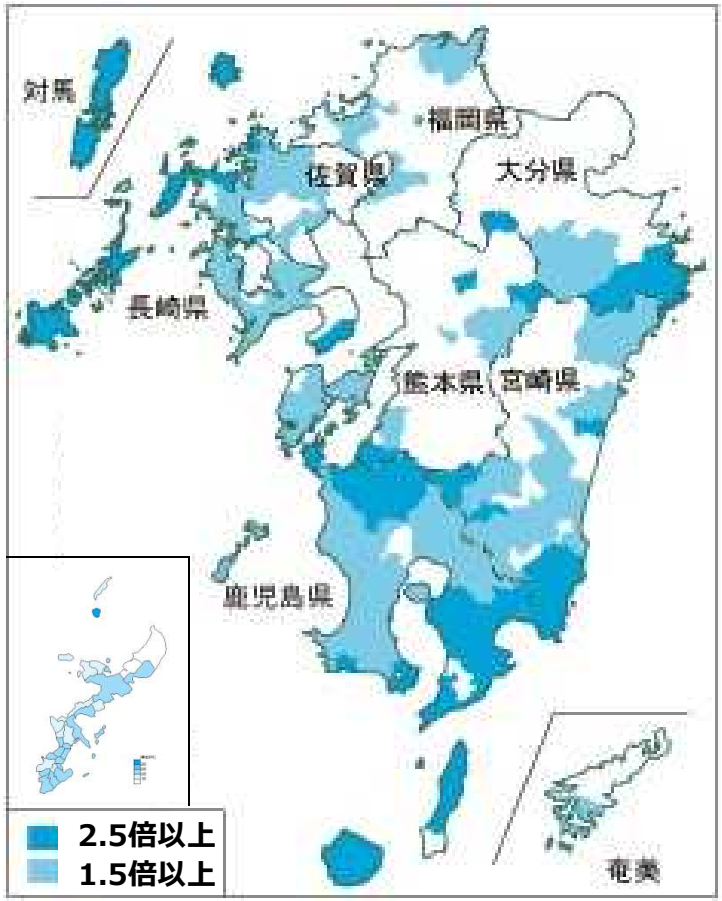


J Med Virol. 2018 Oct;90(10):1658-1665. doi: 10.1002/jmv.25239.

HTLV-1陽性率（2012-2014年）



白血病標準化死亡比の高い地域（2003-2007年）



2011年1月19日付　西日本新聞記事より引用
（沖縄県情報のみ県庁HPデータから追記）

九州での白血病標準化死亡比はHTLV-1陽性率とよく相関する

第2次HTLV-1水平感染疫学調査 in 九州（2010-2016）

調査方法

第1次調査(2005-2011)と同等

1) 登録期間： 2010-2011年　2年間

2) 追跡期間： 2010-2016年　7年間

3) 陽転化　： IFによる陽転判定

第2次HTLV-1水平感染疫学調査 in 九州（2010-2016）

抽出母集団

409,027人

（男性　289,828人；　女性　119,199人）

確定母集団【登録前IF陽性者除く】

408,919人

（男性　289,746人；　女性　119,173人）

陽転確定群

229 人

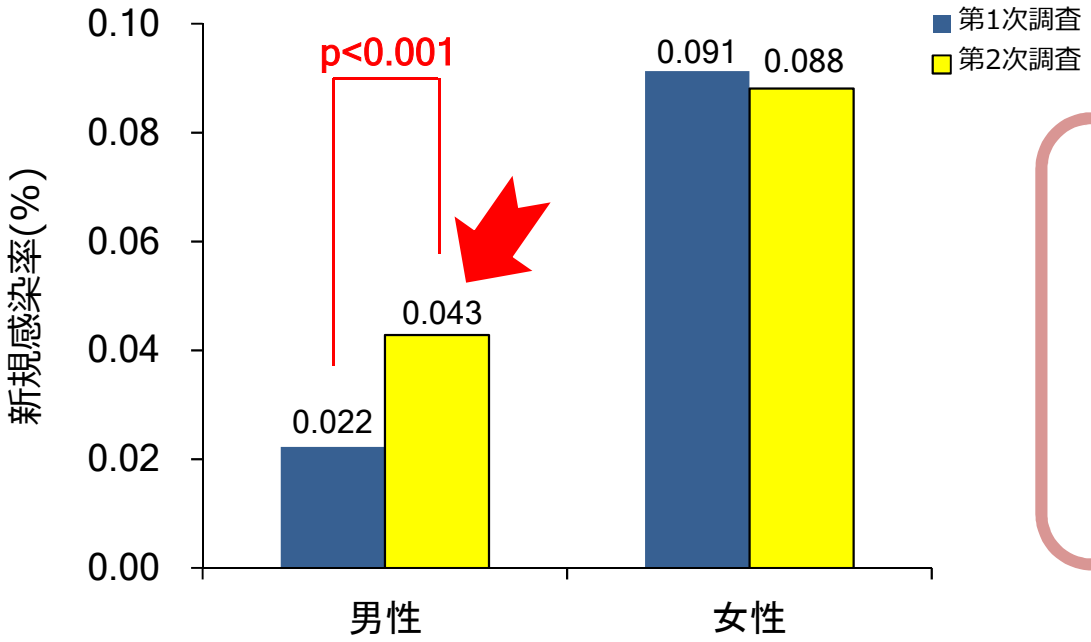
男性　124人
女性　105人

陰性持続群

408,690 人

男性　289,622人
女性　119,068人

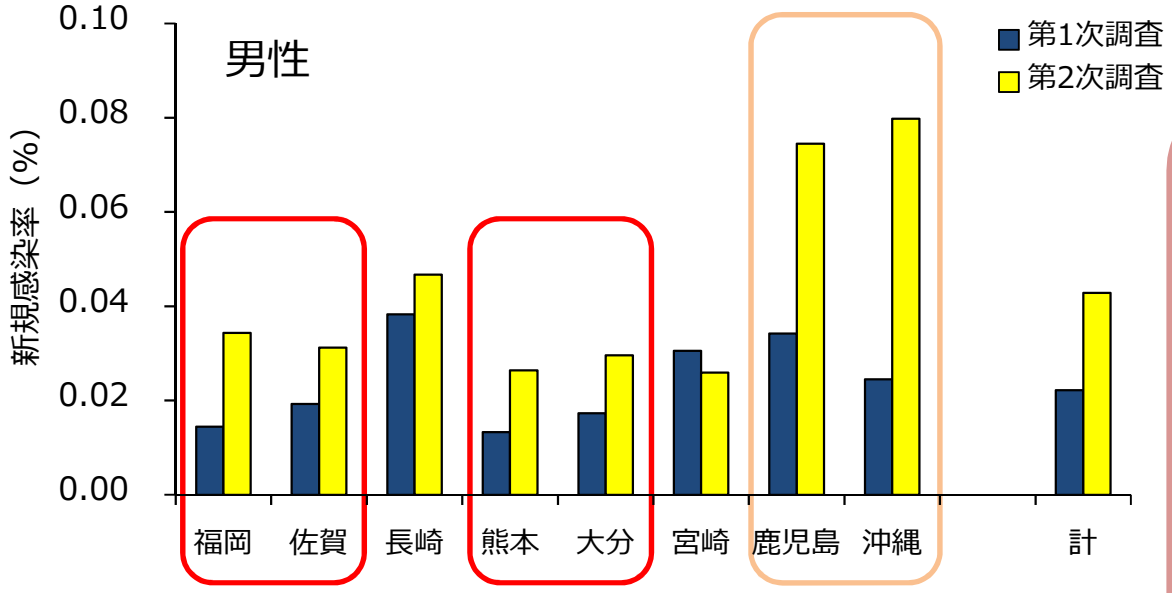
第1次調査との比較 **–男女別新規感染率–**

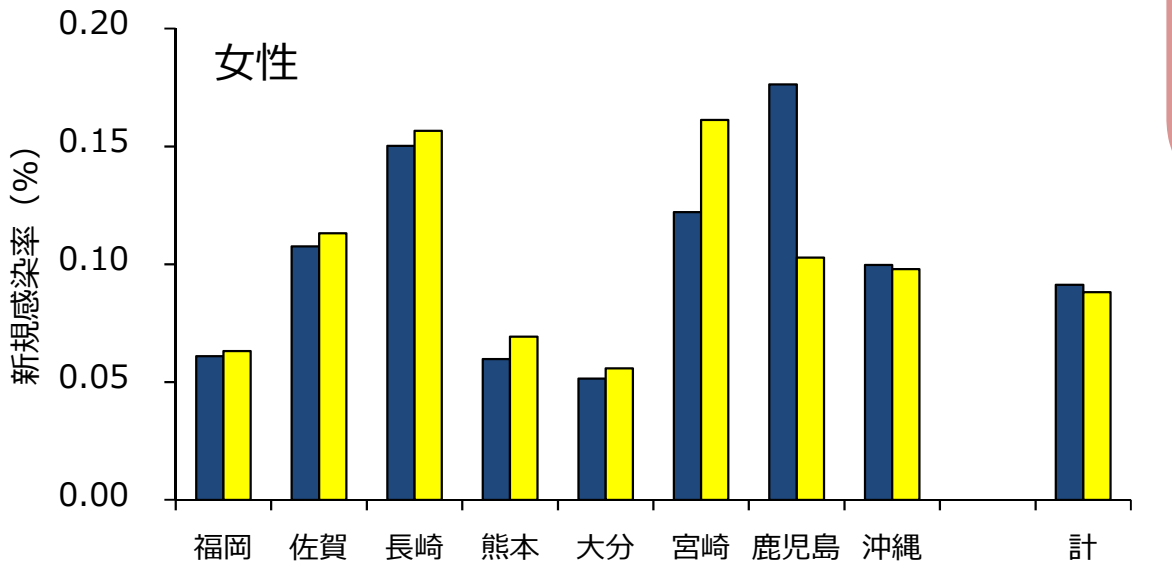


第2次調査では、男性での新規感染率が有意に上昇。女性の新規感染率は高止まり傾向。

	第1次調査（2005-2011年）			第2次調査（2010-2016年）			p value	Odds Ratio	95% CI
	母集団	陽転者	陽転率	母集団	陽転者	陽転率			
男性	274,855	61	0.022%	289,746	124	0.043%	**<0.001**	**1.928**	1.405-2.651
女性	131,467	120	0.091%	119,173	105	0.088%	0.841	0.965	0.737-1.265

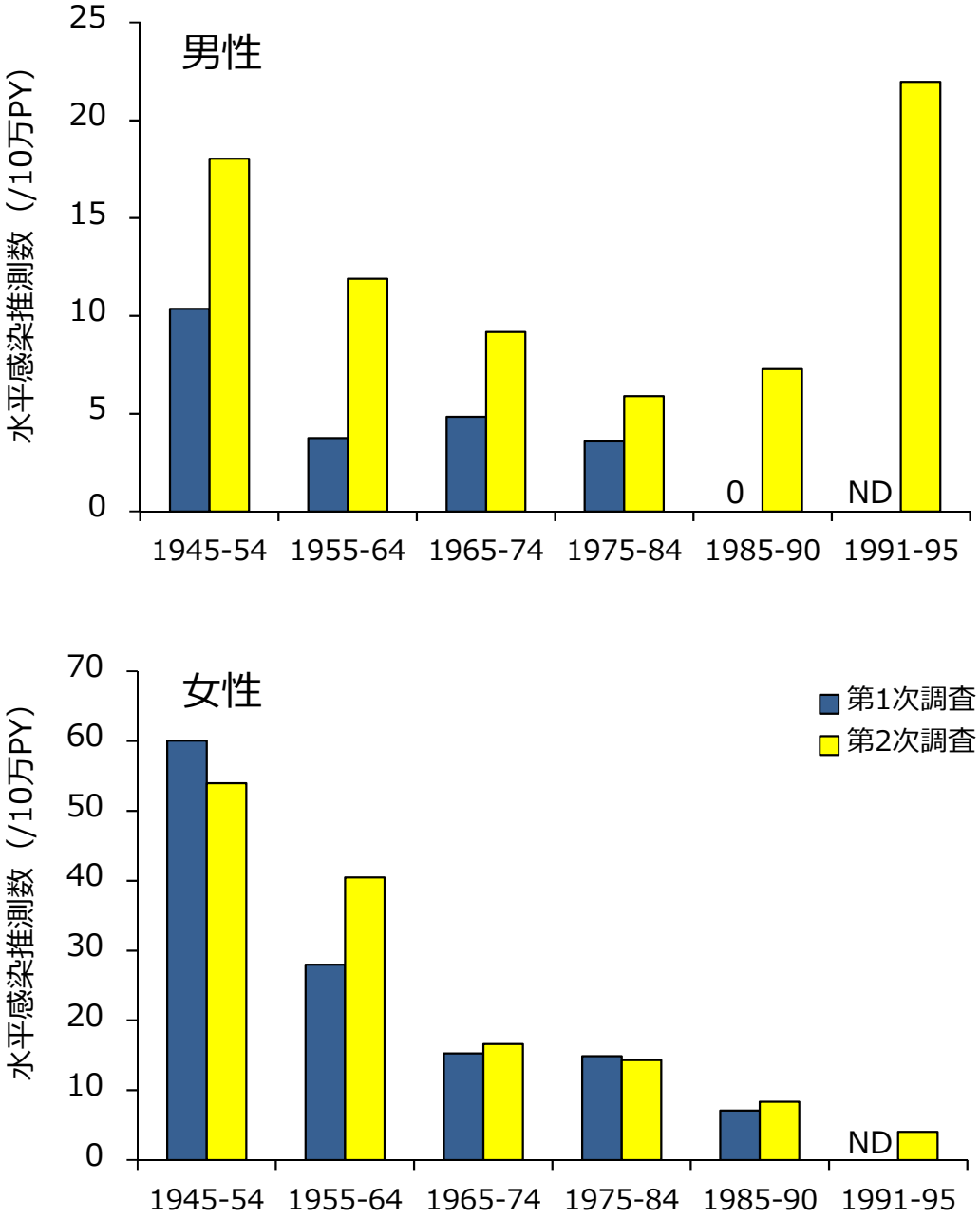
第1次調査との比較 -県別男女別新規感染率-





男性:第1次調査時に比べ、高浸淫地域である 鹿児島、沖縄に加え、低浸淫地域の福岡、佐賀、熊本、大分でも新規感染率が増加しており、感染者分布地域の拡大が懸念される。

生年階層別男女別水平感染推測数（/10万PY）

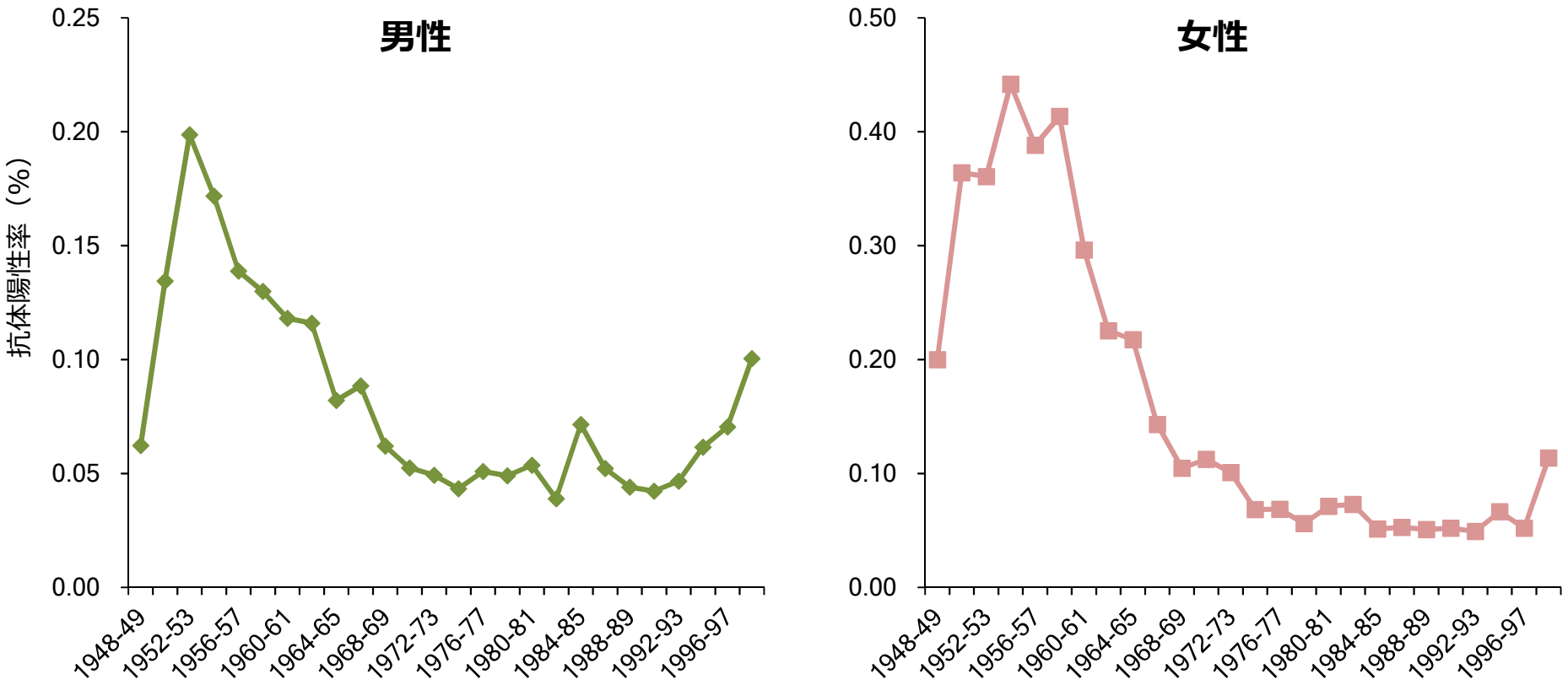


男女とも**生年を遡るにつれて、推定新規感染者数が増加する傾向**があるが、**男性はすべての生年階層で、水平感染推測数が前回調査時より増加**した。

男性：**1985-90生年群で増加に転じ**、1991-95生年群では、他のどの生年群より多い推測数が得られた。

AYA世代男性の感染者増加は、**二次的感染源の増加**を意味し、感染拡大要因となりうる。

献血者の生年階層別HTLV-1陽性率
（2012.9.19-2018.3.31）



1950~1990生年群：年齢低下に伴う陽性率の低下

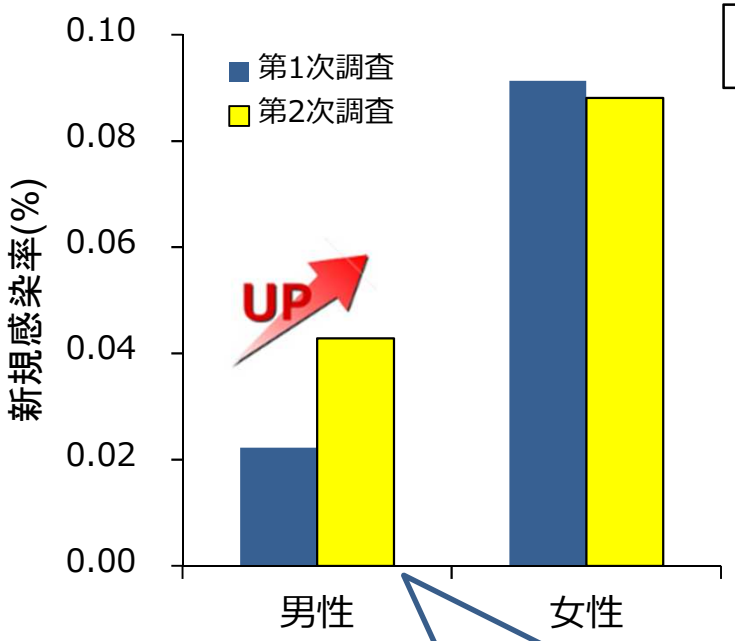
1990年以降生年群：男性の陽性率の増加が顕著

第1次HTLV-1水平感染調査（2005-2011）

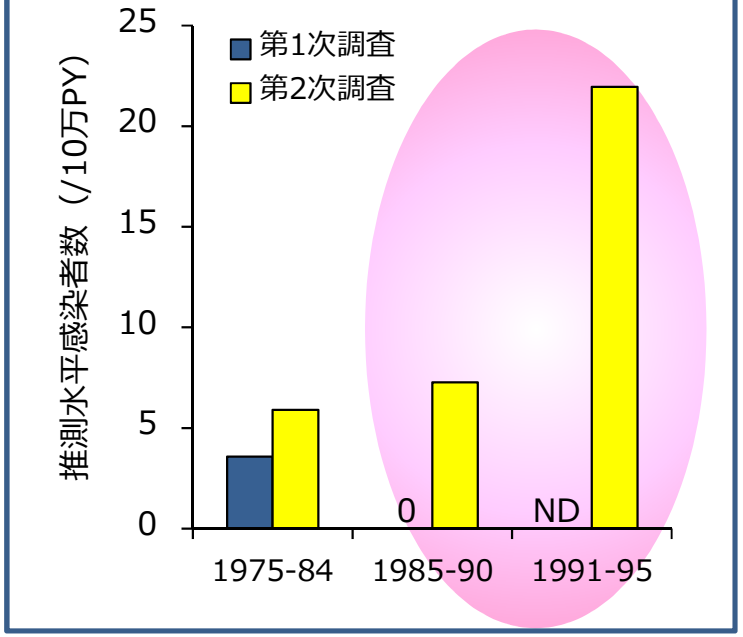
献血者追跡調査から本邦で

年間 4,190名が新規感染 と推測

The Lancet infectious Diseases 2016;16:1246-54.



AYA世代男性での感染者増加



AYA男性感染者増

パートナー感染者増

将来の HTLV-1 感染者増加

将来のHTLV-1感染者増加と対応策の遅れがもたらすもの

高齢化による発症者の増加に伴った専門医療機関の不足

大都市圏での感染拡大パンデミック

医療費・介護費用の増大

周知・啓発の不足に対するクレーム

キャリア対応の地域間格差

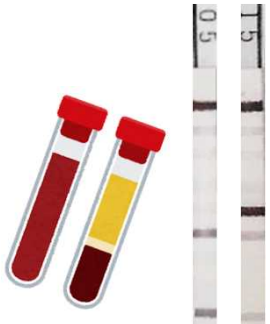
キャリアのQOL低下

啓発媒体と対象（私案）

学校
教育に使える資料の作成，情報収集

家庭
テレビCM，無料動画配信

職場
職場健診，産業医相談体制



医療現場・保険会社
研修，地域格差解消，情報検索ツール

共同研究者

東京大学
東京大学フュチャーセンター推進機構
東京大学医科学研究所

渡邉 俊樹 先生

長崎大学大学院医歯薬総合研究科
フロンティア生命科学

岩永 正子 先生

国立感染症研究所 血液・安全性研究部

大隈 和 先生
浜口 功 先生

日本赤十字社 中央血液研究所

佐竹 正博

日本赤十字社 九州ブロック血液センター

中村 仁美
入田 和男